



01年夏12年春・夏と甲子園での3季連続優勝を束ねたから6年、手が届かなかった全国制覇に挑む。(高松拓輝)

「強打の光星」が帰ってきた。2年ぶり9回目となる夏の甲子園出場を決めた八学光星は、県大会決勝までの4試合を31本塁打で勝ち上がったなど圧倒的な攻撃力を見せた。打力を軸に2打1得点の猛攻で7回コールド勝ちを決めた。



「帰ってきた強打」 昨秋、新チームで挑んだ初の県大会、準決勝で星は引前東に2-1で敗れた。9安打打ちながらも得点機を逃し、2得点、勝負どろどろと本塁打が出ず、延長の末に勝利負

「体幹鍛え不振を克服」 県内屈指の堅守を相手けた。その後県第3代表として臨んだ東北大会では、敗れた。2回戦の相手・能代松蔭は、このまま甲子園は夢のまた夢。1回で「成果が目に見えて分るわけではない。監督は取材に答えながら、打撃の突破口を求め、克服すべき課題を見据えていた。」

「聖地の雰囲気実感」 5日に開幕する第100回の阪神甲子園球場を訪問した。甲子園球場を訪問した。記念大会は史上最多の51日、兵庫県西宮市の今大会は史上最多の

但井 智哉 内野手(3年)



甲子園だより

チームとしての長距離砲、ホテルの裏事からの足らず滞在1日で体重が1kg減ったが、体重は有り余っている。むしろ切

本塁打で沸かせたい

(鳥取県・岩美出身、17歳、80cm、右投げ右打ち)

でも楽しみと満足を、門中央公園野球場で現ムなど約2時間に行き、地入り後初めての練習を汗を流した。

同日午前、同市津行、打撃練習やマシン

れが増して調子が良い」と平気な顔で、大敗り後初の打撃練習では快音を連発していた。

「本塁打で球場が沸かす」と意気込み。31日の甲子園見学打席に立った際は、マウンドが近く感じた。という「甲子園独特の雰囲気」にまなれないようにしっかりと準備していった。